

第2章

国際的なスポーツ大会を契機とした 体力向上事業

東京都では、令和元年にラグビーワールドカップが開催され、令和3年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。これらの国際的なスポーツ大会を契機とし、スポーツへの興味・関心を高め、より運動に親しむことで、「運動が苦手」「運動が嫌い」な児童・生徒をなくし、体力の向上を図っていきます。

千代田区

【児童・生徒数】

4758名

【学校数】

小学校8校、中学校2校、中等教育学校1校



【千代田区の取組】

- ・教育会体育部会主催の「タグラグビー」実践（令和元年 実践報告）
- ・パラスポーツ体験によるボランティアマインドの育成
- ・千代田区立九段中等教育学校での「ボッチャ」の実践

【取組の目的】

○現 状

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への興味・関心が高い。
- ・パラリンピック競技を授業の中で体験していない。

○目 的

- ① パラリンピック競技「ボッチャ」を体験し、その競技の楽しさを感じる。
- ② 男女が同じルールで一緒に「ボッチャ」を行う中で、共にスポーツに親しむ資質や能力を養う。

【取組の内容】

～パラスポーツ「ボッチャ」の取組～

○体育科・保健体育科の授業としての取組

- ・全学年でのボッチャの授業の実施
- ・ルールを簡易化、男女共習での実施
- ・球技大会でボッチャの部を設定

○実技研修

- ・保健体育科教員等のボッチャ指導者講習会（東京都障害者スポーツ協会主催）への参加
- ・校内の保健体育科教員等を対象にボッチャの実技研修の実施

【今後の取組】

- ・球技大会や学年レクなどでの「ボッチャ」の活用
- ・パラリンピアンや企業とコラボレートしたボッチャの授業の実施
- ・異学年合同でのボッチャの授業の実施（上級生が下級生にボッチャを教えるなど）
- ・ボッチャ以外のパラリンピック実施競技の実施

【取組の成果】

- ① 全学年の児童・生徒がボッチャのルールを理解し、ゲームを楽しむことができたようになった。
- ② チーム内で積極的にコミュニケーションをとりながら、ゲームを進めていくことができた。また、運動が苦手な生徒も、意欲的に取り組む姿が多く見られた。
ボッチャを通じて、障害のある方の生活や、共生社会について学ぶことができた。

【取組の内容】

○体育科・保健体育科の授業としての取組

・全学年でのボッチャの授業の実施

初めて取り組む競技だったが、ボッチャはルールが分かりやすいために、すぐに男女一緒にゲームを楽しんで行うことができた。

また、ボッチャは「身体接触がない」、「マスクをしたまま活動することができる」ので、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、安全に行うことができた。



・球技大会でボッチャの部を設定

高等学校1年生では、サッカー・バスケット・ボッチャの3種目の中から、1種目を選択して、球技大会を実施した。

ボッチャの部では男子チーム vs 女子チームの試合で女子チームが勝つことも多く、また、運動が得意でない生徒も積極的に競技に関わる様子が見られた。スーパープレーに拍手がわくなど、とても盛り上がった。

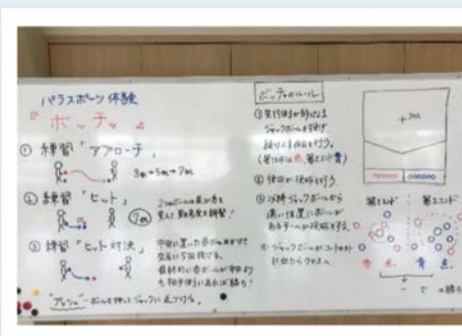


○実技研修

・校内の保健体育科教員等を対象にボッチャの実技研修の実施

全学年でのボッチャの授業を行うに当たって、教員の実技等の研修を行った。また、教員同士が授業を見学し合うことも度々あった。

研修では、授業に適したルールの変更点やコート広さ、基本的な授業の流れなどを実際にプレーしながら検討した。また、多目的室にボッチャコートのラインを引き、授業のたびにラインを引かなくてもよいようにした。



中央区

【幼児・児童・生徒数】 10896名
 【学校園数】 幼稚園 13園、小学校 16校
 中学校 4校

【中央区の特色】

・東京 23 区 の中心に位置し、江戸以来、400 年以上にわたり日本の文化・商業・情報の中心として繁栄してきた由緒ある“まち”である。



中央区役所

【取組の目的】

○現 状

- ・選手村を擁する区として、オリンピック・パラリンピック教育の推進に努めている。
- ・各学校・園の実態に合わせて、授業・保育以外の運動機会の創出に取り組んでいる。

○目 的

- ① 国際的なスポーツ大会を契機に、児童等の運動への興味・関心を高める。
- ② 区内児童等の体力の向上を図る。

【取組の内容】

○ラグビーワールドカップ 2019 について

- ・ラグビー型スポーツの体験（幼・小・中）

○東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

- ・中央区オリンピック・パラリンピック教育推進連絡会におけるレガシー構築のための協議
- ・様々な競技体験

○その他

- ・マイスクールスポーツ（小・中）
- ・運動遊び推進園（幼）

【今後の取組】

- ・現在行っている取組を継続するとともに、各学校・園で実施している取組を共有化することで、取組の活性化を図る。
- ・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査について、学年ごとに東京都の平均値と比較した分析結果から各小・中学校が課題を明らかにし、体力向上に向けた取組の見直しを図る。

【取組の成果】

- ① ラグビー型スポーツや初めて体験する競技に触れることで、幼児・児童・生徒の運動への興味・関心が高まった。
- ② 各学校・園の課題を解決するために、体力向上に関する具体的な取組を設定し、授業等を行った。体力調査の結果を検証し、引き続き、児童・生徒の実態に合った取組を行う。また、各園では成果を数値化し、運動時間や動作数が増加し、一定の体力が向上した。

【取組の内容】

○ラグビーワールドカップ 2019 について ・ラグビー型スポーツの体験（幼・小・中）

オリンピック・パラリンピック教育推進協議会にて、日本ラグビーフットボール協会の方を招き「ラグビーワールドカップとオリンピックを通じた教育からのレガシーの創造」と題した講演を教員向けに実施した。また、各学校・園で、幼児・児童・生徒にラグビー型スポーツを体験させ、ラグビーや車椅子ラグビーなど競技への興味・関心を高めた。



日本ラグビー協会から講師を招き、タグラグビーの楽しさを味わうとともに、ルールを学ぶことができた。（中学校）

○東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について ・様々な競技体験

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、パラリンピアンを講師として招へいし、競技や障害についての講話を聞き、障がい者スポーツへの関心を高めた。また、実際に、パラリンピック競技であるボッチャを体験することで、競技のもつ魅力を児童・生徒が感じ、運動に親しむとともに明るく豊かな生活を営む態度の育成を図った。



講師を招へいし、直接講話や指導を受けることで、競技の面白さを感じ、体験から興味・関心を高めた。（小学校）

○その他

・マイスクールスポーツ（小・中）

日常的な運動習慣の定着に向け、各学校が自校で重点的に取り組むスポーツ活動を掲げ、全校体制で取り組み、児童・生徒一人一人の健康づくりと体力向上を図った。



学年別に一輪車講習会を実施した。基本的な乗り方や個人技・団体技について学び、技能を高めた。（小学校）

・運動遊び推進園（幼）

全幼稚園を「運動遊び推進園」に指定し、幼児期からの運動能力の向上を意識した運動遊びの充実を目指して、運動遊びを計画的に行った。

各幼稚園の実態に応じて、遊具の整備、活用や環境の工夫をするとともに、教員の指導力を高めるための実践を進めた。



運動能力の向上に向け、運動遊びに関する園内研究に取り組んだ。また、成果を数値化し評価した。（幼稚園）

八王子市

【児童・生徒数】
39935名

【学校数】
小学校 69校、中学校 37校
義務教育学校 1校

【八王子市の特色】

- ・緑豊かな丘陵地帯に囲まれており、四季折々の美しい自然に恵まれた環境である。
- ・中学校区を基本にし、近隣の小・中学校で連携し、小中一貫教育に取り組んでいる。



【取組の目的】

○現状

- ・運動が好きと運動が嫌いの児童・生徒の二極化が進んでいる。
- ・小学校からの体力の底上げが課題である。

○目的

- ① 児童・生徒の体力向上
- ② 運動が「好き」「やや好き」な児童・生徒の増加
- ③ 軽運動による運動部活動の工夫改善

【取組の内容】

○国際的なスポーツ大会の種目の運動に親しむ

- ・ラグビー講師派遣授業
- ・オリンピック・パラリンピック種目の体験
- ・世界で活躍する選手との交流（令和元年度）
- ・キャッチボールクラシック講師派遣授業

○運動の得意でない子もスポーツに親しむ

- ・レクリエーション部の充実
- ・休み時間を活用した運動習慣の充実

【今後の取組】

- ・引き続き、スポーツ団体や地域施設等との連携を図り、国際的なスポーツ大会の種目に親しむ環境を整え、児童・生徒の運動への興味関心を高めるとともに体力向上につながる取組を推進していく。
- ・中学校のレクリエーション部の活動の更なる充実を目指して、八王子市レクリエーション協会との連携を今後も継続する。

【取組の成果】

- ① 国際的なスポーツ大会を関連付けて取組を重ねることで、大会や運動に対する興味・関心が高まった。
- ② ゲストティーチャーから直接スポーツの指導を受けることで、運動する楽しさを体感し、主体的に運動に取り組む児童・生徒が増えてきた。
- ③ 八王子市レクリエーション協会との連携により、地域とのつながりを深めるとともに、レクリエーション部の活動の充実を図ることができた。

【取組の内容】

○国際的なスポーツ大会の種目の運動に親しむ

・タグラグビー講師派遣授業

ラグビーワールドカップ 2019 を契機とし、ラグビー協会と連携を図り、ラグビー選手によるタグラグビー授業を実施した。

令和元年度：小学校 13 校で実施

令和2年度：小学校 15 校で実施予定であったが感染症予防のため中止



・オリンピック・パラリンピック種目の体験

オリンピックやパラリンピアンを講師に招へいし、実技指導及び講演会等を実施した。

八王子市にあるボルダリング施設から指導者を派遣してもらい、クライミングの体験授業を実施した。

どの種目においても、トップアスリートや専門知識をもった講師に直接指導を受けることで、体を動かす楽しさや心地よさを味わう機会となっている。また、運動意欲の向上につながっている。

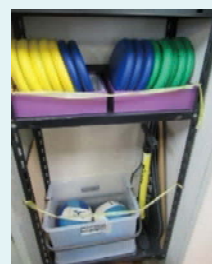


○運動の得意でない子もスポーツに親しむ

・レクリエーション部の充実

中学校の拠点校では、令和元年度に日本フライングディスク協会から講師を招へいし、ディスクゴルフとフライングディスクの講習を実施した。また、貸し出しフライングディスクを用意し、スポーツに親しむ環境整備を行った。令和2年度は、八王子市レクリエーション協会と連携を図り、より多彩なレクリエーションスポーツに取り組んだ。

軽いランニング等で体を動かし、戦術的な作戦を立て競い合うことで、「運動」の楽しさの体感につながっている。フライングディスクやラダーゲッター、ポッチャ、グラウンドゴルフなどのレクリエーションスポーツを取り入れ、活動の充実を図ることができた。



調布市

【児童・生徒数】
15413名

【学校数】
小学校 20校、中学校 8校

【調布市の特色】

- ・東京都のほぼ中央に位置し、近年人口の増加が著しい。東京スタジアムなど国際的な大会を開催する施設があり、地域と連携した事業が多い自治体である。
- ・2019年にはラグビーワールドカップ、令和3年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が本市スポーツ施設にて開催される。



【取組の目的】

○現状

- ・令和元年度の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果によると、体力合計点が、7割の学校で都の平均と同等となってきている。ただし、反復横とび、立ち幅とびについては、都の平均を下回っている。

○目的

- ① 小学生の運動技能の向上
- ② 中学生の持久力・脚力の向上
- ③ 体力向上に係る教育活動の学校・保護者・市民への周知

【取組の内容】

○スポーツ大会、スポーツ教室の実施

- ・小学生ラグビー大会
ラグビーを通じた運動技能の向上を図るための大会を開催している。
- ・中学生走り方教室
オリンピック等を招へいし、中学校全学年を対象として持久力・脚力の向上を図るための走り方教室を実施している。

○学校・保護者・地域への啓発

- ・調布市教育シンポジウム
調布市内小・中学校教職員及び保護者、一般市民と、国際的な舞台で活躍しているアスリートが体力向上について考える。

【今後の取組】

- ・小学生ラグビー大会を他の自治体と連携できるように、開催方法等について検討していく。
- ・小学生においても走り方教室を実施し、運動機会の確保や運動を身近に感じられる事業を継続していく。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会終了後、レガシーとして調布市内小・中学校が、様々なスポーツ団体と連携することができるシステムを構築していく。

【取組の成果】

- ① 小学生ラグビー大会の参加者数及びチーム数が、3年前の第1回大会と比べて、約10チームほど増加した(41チーム、319名参加)。また、ラグビー競技への関心が高まっている(令和元年度時点)。
- ② 中学生の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果によると持久力について中学校2年生男子は東京都平均より3.5ポイント高く、女子も同じく1.9ポイント高くなった(令和元年度時点)。
- ③ 市内小中学校の障害者理解教育推進やパラリンピックへの興味・関心が高まり、体験活動への積極的な関わりが増加した。

【取組の内容】

○スポーツ大会、スポーツ教室の実施

・小学生ラグビー大会

小学校4年生以上を対象とし、調布市小学校ラグビー運営委員会・調布市スポーツ振興課・調布市ラグビー協会・全日本ラグビー協会と連携して大会を運営している。



大会を重ねるにつれ、児童のラグビーに関する興味・関心が高まるとともに、市内小学校でのクラブ活動に取り入れられ、休み時間や遊びと運動の広がりが見られる。

・中学生走り方教室



中学生を対象に、令和元年度は立命館大学陸上競技部コーチの高尾憲司氏を招いて、運動と体のメカニズムについて、理論と実践を交えて教わった。

令和2年度は、エドモントン世界陸上女子日本代表、ベルリンマラソン大会優勝の松尾和美氏を招いて、走り方の基礎・基本やフォーム、タイムトライアルによる走り方の指導を実践形式で教わった。

調布市スポーツ振興課、調布市体育協会と運営の連携をし、拓殖大学陸上競技部と指導補助の連携をしている。

○学校・保護者・地域への啓発

・調布市教育シンポジウム

パラリンピック競技の理解や車椅子バスケットボールの普及啓発及び障害者と健常者が共に生きていく社会づくりについて、学校・保護者・地域の方々の理解・啓発を図った。



令和元年度の調布市教育シンポジウムでは、「調布市の障害者理解教育の推進」をテーマに、教育委員会及び各学校等の取組紹介や、日本車いすバスケットボール協会の御協力による「川崎 WSC」の現日本代表選手等を招いた講演やパネルディスカッションを行った。

令和2年度は、パラリンピアンやオリンピックと、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した中における体力向上についてパネルディスカッションを実施予定である。

小金井市

【児童・生徒数】

約 7700 名

【学校数】

小学校 9 校 中学校 5 校

【小金井市の特色】

- ・市の北側には都立小金井公園、南側には都立武蔵野公園、都立野川公園があり、豊かな自然に囲まれた地域である。
- ・小学校 9 校、中学校 5 校と小・中学校が協力しやすい環境があり、連携して様々な取組を行っている。



【取組の目的】

○現 状

- ・学校間で「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の総合評価 D・E 層の児童・生徒割合に差が見られる。
- ・運動の好き・きらいの項目において、男子は中学校 2 年生から、女子は小学校 6 年生から「ややきらい」「きらい」が多くなる。

○目 的

- ① 全校を対象とした運動を好きになる体育授業及び取組の工夫改善を図る。
- ② 推進拠点校における授業改善や運動好きを増やす取組を市内各校へ広める。
- ③ 国際的なスポーツ大会を契機として、スポーツへの関心や体力向上の意識を高める。

【取組の内容】

○タグラグビーの普及

- ・教員対象のタグラグビー講習会の実施
- ・市内全校におけるタグラグビー授業の推進
- ・タグラグビー用具の整備

○推進拠点校の取組

- ・日常的な運動につながる環境整備
- ・体力向上及び運動好きを増やす授業改善
- ・放課後校庭遊びの取組
- ・軽スポーツ部の取組

○オリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・ボッチャ、車いすバスケットボールの体験
- ・観戦種目に関する調べ学習

【今後の取組】

- ・タグラグビー講習を受講しタグティーチャーとなった教員を中心に、市内各学校においてタグラグビーやタグを活用した授業を推進する。
- ・推進拠点校における授業の工夫や体力向上の取組成果を各校に広め、市内の児童・生徒が運動好きになる取組を推進する。
- ・令和 3 年に開催される東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、全小・中学校が観戦を予定している。観戦する競技について調べたり、パラスポーツを体験したりするなど、スポーツや体力向上への関心を高めていく。

【取組の成果】

- ① 講習会等を実施したことで、教員がタグラグビーに対する理解を深め、市内全校においてタグラグビーの授業が行われた。また、タグラグビーを通して運動を楽しむ児童・生徒の姿が多く見られた。
- ② 日常的な運動につながる環境整備や放課後子ども教室と連携した「校庭遊び」等の取組は、運動が苦手な児童にとっても、積極的に運動を楽しむ面で有効であった。
- ③ 国際的なスポーツ大会を契機とした様々な取組は、児童・生徒のスポーツへの関心と体力向上の意識を高めることにつながった。

【取組の内容】

○タグラグビーの普及

・教員対象のタグラグビー講習会の実施

市内小中学校の体力向上推進担当教員を対象にタグラグビー講習会を実施した。

参加者の感想

「運動に苦手意識をもつ児童・生徒も楽しむことができ、運動の充実感を味わうことができました。」
「実際に体験してみると大人でも楽しく、思っていた以上に運動量が確保できることを実感しました。」



・市内全校におけるタグラグビー授業の推進

授業後のアンケートでは、中学校女子生徒の90%以上が「タグラグビーが楽しかった。」と回答した。

○推進拠点校の取組

・日常的な運動につながる環境整備

児童が日常的に運動に取り組めるようサーキットを整備した。運動が苦手な児童も積極的に楽しんでいる。

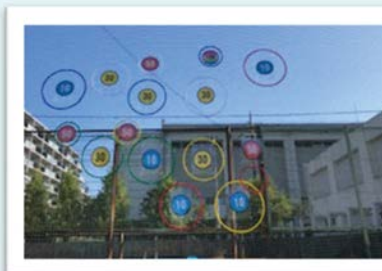
休み時間には体育委員会がボールの貸出しなどを行っている。

教員だけでなく用務主事も協力してサーキットコースを手作りしている。体育館には走り幅跳びや走り高跳びの世界記録などを掲示している。

写真

的当てネット（上）

ケンパコース（下）



○オリンピック・パラリンピック教育の推進

・ボッチャ、車いすバスケットボールの体験



オリンピック・パラリンピック教育の推進として、ボッチャや車いすバスケットボールの体験を行った。オリンピック・パラリンピック競技への関心を高めるとともに、多様性を尊重する大切さや障害についての理解を深めることができた。